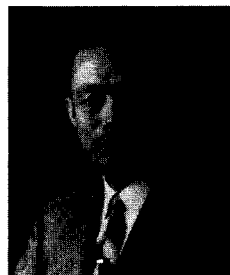


# 会長退任の御挨拶

中央大学 伊理 正夫



この2年間本学会の会長という名誉あるそして責任の重い役目を仰せつかっておりましたが、やっと任務を終えて、文字どおり大物財界人の村井次期会長に引継ぎをすることができ、正直言ってほっとしているところであります。

もとよりこのような重責を担うには力不足の私でありましたが、2年間学会の運営に関して会長を支えてくださいました理事会のメンバーの方々、それぞれの担務について積極的に活動を続けられた各種委員会等の委員・幹事の皆様、そして献身的に確実な仕事を遂行して下さった事務局の方々の力強い御協力によって、何とか責めを塞ぐことができたのだと思っております。あらためて皆様に御礼申し上げる次第です。

顧みますと、会長就任の時に諸先輩から御忠告いただいたとおり、世の中の不景気の影響で、学会の財政はこの2年間非常に厳しい状況に置かれておりました。賛助会員数の減少、正会員からの退会者の増加が食い止められなかったことは、残念でした。しかし、皆様丸一となつての御努力のお蔭で、この影響を最小限に止めることができました。特に、正会員については新規入会者を多数迎えることができて、全体としては会員数が一定あるいは微増という結果になったのは、有難いことだったと感謝しております。

一方、厳しい財政を反映して予算的にかんりの御無理を強いたにもかかわらず、学会本来の研究・普及活動は、ますます活発化しており、特に、若い会員の活躍、新しい分野の展開に目ざましいものがありました。このことは、35才を超え40才にかかろうとしている本学会にとって、次の世紀へ向けての明るい未来を約束する嬉しい兆しであ

りましょう。会長としましても、OR学会の初心を忘れず、学会としての秩序は保ちながらも、旧来の慣行だけに捉われることなく、会員が自由にのびのびと活動ができるような環境を、学会が提供することが大切であると考えてまいりました。

先輩の方々のお力で、本学会の公的な地歩は次第に堅固になり、学術会議、日本工学会等を通じての日本の学界への本会の貢献も大きくなってきましたし、またそうなることがさらに期待されています。諸先輩の御努力を引き継いで、そのような期待に応えてゆくことも、これからの本会に課せられた大きな任務の1つであると痛感しました。

本学会長としての任期は終了しましたものの、私には、アジア・太平洋地域のOR関連10学会の連合体であるAPORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) の会長職の任期が本年末まで続きます。その立場から、来る7月に同学会連合の第3回大会を福岡で開催して下さいよう、本会をお願いしております。大会議長は元本学会長で現日本学術会議会長の近藤次郎先生に、大会組織委員長は元本会副会長の京都大学の長谷川利治先生をお願いし、多くの学会員の御協力を得て、その準備はいま最終段階に入っております。日本がそして日本のORが、アジアのそして世界の注目を浴びている今日、APORS'94大会に多数の会員が参加されて、真の意味での国際交流・国際貢献をしていただけるよう、この場を借りてあらためてお願い致します。